

入学試験問題 「小論文」 (その一)

受験番号

以下の文章で紹介されている「介護離職問題」について、あなたの意見を800字以内で述べよ。

介護離職 仕事との両立ができる社会に

働き盛りの人材が、家族の介護のために離職を余儀なくされる事態は、本人だけでなく、社会にとってもマイナスだ。政府や企業は、仕事と介護の両立を支援する必要がある。

総務省によると、介護を理由とした離職者は昨年、10万6000人に上った。40～50歳代が目立ち、管理職やベテランとして企業を支えていた人も多いとみられる。

仕事を辞めた理由については、勤務先に仕事との両立支援制度がないことや、介護休業などの制度を利用しづらい雰囲気があったためだという人が多い。

2025年には「団塊の世代」が全員75歳以上になり、介護が必要な人は今後ますます増える。少子高齢化で労働力不足が進む今、働きたいのに、介護のために働けない人がいる状況は深刻だ。

特に企業にとって、人手の確保は経営上の重要課題だ。社員の介護問題に真剣に取り組むことは、会社の発展にもつながる。

介護しながら働いている人も全国で360万人を超えた。こうした人たちも含めて、介護休業などの制度が十分に活用されているか、確認してほしい。

育児・介護休業法では、介護の際、会社を最長3か月休めることになっている。しかし、実際に休業したのは、介護しながら働く人の1・6%にとどまる。制度を知らない人も多いのではないか。

企業は、介護に直面した社員の相談に応じる窓口を充実させてほしい。外部の専門家に助言をもらえる仕組みなども有効だろう。

介護は、協力し合える家族がいるかどうかや、介護される人の心身の状態などによって、介護者にかかる負担の度合いが異なる。

短時間勤務や在宅ワークといった柔軟な働き方を幅広く認めるなど、多様なケースに対応できるような体制を整えてもらいたい。

介護事業には、入浴介助や食事の宅配、家事代行など様々なサービスがある。しかし、介護保険が使えるかどうかや内容によって異なるなど複雑で分かりにくい。

国や自治体は、企業や介護者にサービスの種類や使い方を丁寧に説明することが重要だ。

令和六年度 鹿児島女子短期大学 社会人特別選考四期

入学試験問題 「小論文」 (その二)

いったん仕事を辞めると、経済的に困窮するうえ、介護にかかりきりになり、介護者が心身ともに疲れ果ててしまう恐れがある。

介護者自身も、自分や家族に合ったサービスを選び、仕事を辞めずに介護を続ける道を探ってほしい。介護が必要になる前から、いざという時の対応方針を家族で話し合っておくことも大切だ。

読売新聞社説 2023・10・5 より

注意 (1) 字数は所定の原稿用紙二枚以内。時間は六十分。

(2) この紙の余白はメモ用紙として自由に使用してよいが、終わったら机の上に原稿用紙(小論文)と一緒に置いて、持ち帰らないこと。